LIGHT HOUSE
ライトハウス
〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 1-16-13
TEL 03-3717-2711　FAX 03-3717-2721
http : //www.lighthouse-jiyugaoka.jp　e-mail gospel@lighthouse-jiyugaoka.jp
郵便振替口座　00120-6-170857　みずほ銀行 渋谷支店 普通 2382850（ライトハウス）

C2021-11 終わりのしるし

[今月の聖書]

伝道の書 3:1.11.14
3:1 天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。3:11 神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終りまで見きわめることはできない。
3:14 わたしは知っている。すべて神がなさる事は永遠に変ることがなく、これに加えることも、これから取ることもできない。神がこのようにされるのは、人々が神の前に恐れをもつようになるためである。

第一ペテロ 4:7.8
4:7 万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。4:8 何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおうものである。

マタイ 24:3-14
24:3 またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」。
24:4 そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい。24:5 多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう。24:6 また、戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起らねばならないが、まだ終りではない。24:7 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう。24:8 しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。24:9 そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。
24:10 そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。24:11 また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。24:12 また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。
24:14 そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。

ルカ 21:10.11
21:10 それから彼らに言われた、「民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。21:11 また大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ恐ろしいことや天からの物すごい前兆があるであろう。

マタイ 24:34-36
24:34 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。24:35 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。24:36 その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。

お元気でお過ごしでしょうか。今月は、「終わりのしるし」と題して聖書が、今世界に起こっている事について、またこれから起こることについてどのように預言しているか学んでみましょう。ビリーグラハム博士は、聖書は人間が罪から救われる道を教えているばかりではなく、世界の歴史の終わりがどのように来るかという預言についても語っていると言っています。これは単に終末論を聞いて恐れを抱くということではなく、新幹線に乗って大阪に行く時に、名古屋や京都に止まって新大阪に着く経路を知らずに安心して旅行ができないのと同じです。ですから聖書における預言の言葉を学んでおく必要があります。

世界の人々の精神状態、また道徳的状態の中に終わりのしるしがあります。マタイによる福音書 24 章 3 節から 14 節に 10 の終わりのしるしが書かれています。またルカによる福音書 21 章 11 節には、マタイが語っていない「疫病」を加えています。今私たちが直面しているコロナウィルス問題は、ここで語られている「疫病」を指しています。また頻発する大地震や、世界各地で起こっている飢饉、さらに今後恐るべき天地が揺らぐようなものすごい前兆があるとも語られています。

単に地球温暖化現象というような一般的出来事ではなく、総合的に世界の終わりが指し示されているのです。その時がいつかという事は私たちには分かりません。しかし確かにその時が近づいている事は明らかです。

信仰の目を持ってそれを受け止め、聖霊のインスピレーションを受けるならば、①速やかに準備をしなければなりません。②そして忍耐を持って待ち望むのです。③さらにその時を目指して熱心に働きましょう。

9 月にお話ししましたように「私たちはどこから来て、どこにいて、どこに行こうとしているか?」という命題に再び直面するのです。すでにクリスチャンであるならば、ますます真剣に備えましょう。未だキリストの救いに預かっていないならば、速やかに決心し、救いを求めましょう。もしあなたがイエス・キリストを知っているならば、もはや恐れる事はありません。終わりのしるしは、私たちにとっては希望のしるしなのですから。今月も神の守りと祝福がありますようにお祈りしています。

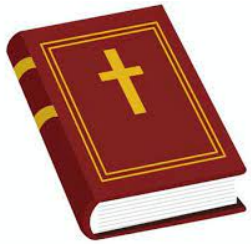
小田 彰

(お知らせ)
☆ 11 月 17 日(水)11:00 自由が丘チャペルで CFI 水曜礼拝をいたします。年内に 1 度だけ集会をいたします。ご都合が付きましたらおいでください。さらに感染が収束し落ち着きましたら、2022 年に地区集会を再開いたしましょう。

◇◆◇ ＣＦＩ会員投稿原稿　第 81 回 ◇◆◇

「わが信仰の系譜」（2）

横塚 實（神奈川県）



前回、私が、育った家庭や教会を通して成長し、社会人として独立し結婚に至る歩みを少しお話ししました。

一人前の社会人として歩み始めてから様々な課題がありましたが、病という試練が私の信仰を試すこととなりました。

昭和 45 年 5 月 17 日(1970 年)長男が誕生しました。詩篇 23 篇第 1 節の「エホバはわが牧者なり」より「牧人（まきと）」と命名しました。主に愛される人となるように祈りました。

「民よ、いかなる時にも神に信頼せよ。その御前にあなた方の心を注ぎ出せ。神は我らの避け所である。」(詩篇 62: 8)

昭和 49 年 6 月 17 日(1974 年)次男が誕生しました。出産時、「前置胎盤」「胎盤剥離」という危険な状態でした。妻靖子にとっては命をかけて神に祈るはじめての試練の時でした。帝王切開で出産することになり、担当医からは、親を取るか、子供を取るかとの宣告を受けるほどの重い状態でした。

「神はいかなる患難の中にいる時でも私たちを慰めてくださり、私たち自身も、神に慰めていただくその慰めを持ってあらゆる患難の中にある人々を慰めることができるようにしてくださるのである」(第二コリント 1: 4)

果たせる哉、無事出産し、創世記 12 章 2 節から「あなたは祝福の基となるであろう」より「基（もとい)」と命名しました。それぞれの祖父母の祈り、また多くの兄弟姉妹の祈りをいただき、「祈りは聞かれる」という実感を強く持ちました。この時ほど夫婦が必死に祈った事はありませんでした。

「あなた方の会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなた方を耐えられないような試練に合わせる事はないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、逃れる道も備えてくださるのである」(第一コリント 10: 13)

さて、30 歳後半となり、日産自動車における役割も重要な部門での仕事となりました。新型車開発の設計部門、完成車の検査部門での品質管理と性能試験、耐久試験などを実施する「車両走行実験課」課長の大役を任ぜられました。150 名ほどの部下を率いて、毎日テストコースでの実験や夜間の公道での耐久実験など数々の危険との狭間で、事故がないように毎日必死に祈る状態が続きました。

昭和 47 年 12 月(1972 年)、2 カ月間にわたり米国への輸出仕様車適合性実験のため、カリフォルニア州米国日産を基地として、カリフォルニア州、ネバダ州、アリゾナ州、ニューヨーク州など本格的スポーツカー「DATSUN 240Z」などの公道走行実験をいたしました。

昭和 49 年 4 月(1974 年)、関東学院大学機械工学科の恩師の依頼を受け、大学での機械工学に関する授業を受け持つことになりました。後に「生産設計法」(1986 年)を出版し、昭和 52 年 3 月(1977 年)日産自動車を退職し、大学教員として奉職することになり、以来 70 歳の定年退職まで 31 年間ミッションスクールでの教鞭をとることができた事は、ただ主の恵みと感謝しております。

昭和 60 年 4 月より 34 年間、長津田地区における社会福祉協議会役員として奉仕してきました。また平成元年 7 月(1989 年)より 27 年間保護司の委嘱を受け、青少年の更生保護、刑務所送致となった犯罪者の更生保護に努力してきました。これらはすべて、与えられた主の命令と受け止め、祈りの内に実行してきました。

平成 3 年 5 月(1991 年)、健康診断の折、胃がんの宣告を受けました。当時はまだ医学の技術が今日のように進んでいませんでしたので大変祈らされました。死の恐怖さえも感じたほどです。6 月 21 日、相模野病院にて切除(亜全摘出)手術を終了しました。

そこで弟子たちはみそばに寄ってきてイエスを起こし、「主よ、お助けください、私たちは死にそうです」と言った。するとイエスは彼らに言われた、「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちよ」。それから起き上がって、風と海とお叱りになると大凪になった。彼らは驚いて言った、「この方はどういう人なのだろう。風も海も従わせるとは」(マタイ 8: 25-27)

まさにこの弟子たちのように私の信仰は揺さぶられ試されたのです。以来 31 年間、主の恵みと哀れみに守られて生活しております事はただ感謝と言う他ありません。

私のがん摘出手術に際して、二人の息子たちはそれぞれ危機を感じ、将来医学に志すこととなりました。現在、牧人は聖マリアンナ医科大学病院にて、基は三井記念病院にてコロナ禍の中で日々戦っています。

思えば、大勢の方々との出会いがありました。教会関係の先生方、信仰を共にする信者の方々の祈りに支えられ、また聖書の御言葉に励まされ、讃美歌聖歌によって恵まれました。近年は MCS メサイヤコーラルソサエティー合唱団に加わり、メサイアを歌うことができました。86 年間、主と共に歩み、その恵みといつくしみに守られて過ごすことができました事は感謝にたえません。

「私たちは、四方から患難を受けても窮しない。途方に暮れても行き詰まらない。」(第二コリント 4: 8)
「すべて彼を信じるものは、失望に終わることがない。」(ローマ 10: 11)